

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。ただし、句読点・記号は一字として数えることとします。

次の文章は小説で、クラスで交通標語を作っている場面です。和泉文彦君——「ブンちゃん」が、(信号は 渡る前にも 右左)という標語^①を提案しました。その他の標語と合わせて話し合いをしています。

「他に意見ありませんか？」

司会の細田くんが、教卓から教室を見まわして言った。

「決まりだろ、もう」

すかさず三好くんが言った。「ブンちゃんのでいいじゃん、サイコーだもん」とつづけ、きみをちらりと見て、へへっと笑う。

「だめだよ」^②きみは怒った顔で言った。「ちゃんと投票して、多数決で決めようぜ」

はつきりと「勝ち」がわかったほうが気分がいい。負けるはずがない。勉強でもスポーツでも、五年三組の男子できみにかなう子は誰もいない。

「じゃあ、投票にする？」

細田くんは、自信なさげにきみを見て言った。学級委員のくせに、困ったときにはいつもきみを見る。一学期の学級委員はきみだった。「委員をツツめるのは一年に一度だけ」という決まりさえなかったら、^③二期もきみが委員に選ばれていたはずだった。

「さんせーいー」

きみが手を上げて応えると、細田くんはほっとした顔になり、ようやく学級委員の威厳を取り戻して「じゃあ、投票にします」と言った。そこまでは筋書きどおりだった。^④

でも、黒板に向けた細田くんの視線を引き戻すように、教室の後ろから声が聞こえた。

「意見、言っていないですか？」

耳^⑤ナれない男子の声だった。あいつだ、とすぐにわかった。二期から入ってきた転校生——五年三組の一員になってまだ十日足らずの、中西くん^⑥だ。

予想外のことに細田くんは言葉に詰まり、救いを求めるようにきみを見た。

出端^⑦をくじかれたきみはムツとして、でもそれを顔には出さずに、いーんじゃない？ と目で応えた。その視線を、中西くんに向けて滑^⑧らせる。おとなしい奴だと思っていた。前の学校は、市役所の近くの城山小学校だった。二丁目に建ったばかりのマンションに引越してきた。知っているのはそれだけだ。

中西くんは席に着いたまま、黒板を指差して「和泉くんの提案した標語、いいけど、ちょっと間違っていると思います」と言った。「直したほうが、ずっとよくなるから」

^⑦教室は一瞬静まり返った。男子の何人かがきみを振り向き、女子の何人かは怪訝^⑧そうに顔を見合わせた。

中西くんは落ち着いた口調で、きみの標語の間違いを説明した。このま

までは意味が通らない、渡るのは横断歩道や交差点なんだから「信号を渡る」という言い方はおかしい、「渡る前」と言うのなら、「信号」ではなくて「横断歩道」や「交差点」に替えたほうがいい……。

教室がざわついた。男子は困惑顔できみと中西くんを交互に見るだけだったが、女子は小声でしゃべりながら、そうだよ、どうなずいている子が多かった。きみはあわてて本宮先生の顔を盗み見た。先生は腕組みをして、ふむふむ、と中西くんの意見に納得している様子だった。

「だめだよ、変だよ、それ」

⑩ きみは声を張り上げる。「絶対だめだよ、そんなの、そっちのほうがかしいって」と一息につづけ、そこから先はとっさに考えたことを口にした。

「交差点」なんて言っても、一年生や二年生だと意味わかんないよ。難しい言葉つかってカッコつけても、意味がわかんなかったら標語にならないから、だからオレ、わざと『信号』にしたんだよ」

中西くんをにらみつけた。でも、中西くんはきみには目を向けず、細田くんにもっといい直し方があります」と言った。

冷静な中西くんの口調や表情に吸い寄せられたみたいに、細田くんは「発表してください」と応え、川原くんもチョークを持って黒板に向かった。

〈信号は 青になっても 右左〉

黒板の字は、途中から——「青になっても」の一言に、川原くんが、あ、そっか、とうなずいたのをサカイに大きくなった。

⑪ 教室のざわめきも、どっちつかずで揺れ動いていたのが、しだいに一つの声の束にまとまっていた。うなずくしぐさがあちこちで交わさ

問一 線 a e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線 ①「標語」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア スローガン
- イ ポスター
- ウ マニフェスト
- エ キャンペーン

問三 線 ②「きみは怒った顔で言った」のは、なぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア クラスみんなの標語を選ぶには、はっきり結果の出るやり方の多数決のほうが便利だから。
- イ 自分で決まったも同然だが、多数決ではっきりクラスの標語に決めるほうが気分がいいから。
- ウ クラスみんなで標語を決めるのだから、みんなが納得する多数決で決めたほうが良いから。
- エ 選ぶのはクラスの標語なので、投票ではっきり勝ち負けを決めなければいけないものだから。

問四 線 ③「二学期も……選ばれていたはずだった」とありますが、その前後の内容から「きみ」はクラスの中でどのような存在と考えられますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア スポーツや勉強でもだれにも負けず、いつも自分の意見にみんなを従わせているこわい存在。
- イ 担任も能力を認めるくらい優れていて、いつも自分の意見をみんな

れる。三好くんが、ブンちゃんどうする？ と心配そうにこっちを見ていた。それがうつつとうしくして、よけい悔しくて、きみはそっぽを向いて椅子に座り直し、窓の外を見つめた。

「じゃあ……いまの中西くんの提案も入れて、どれがいいか……投票に、します」

細田くんが気まずそうに言った。きみは窓の外を見つめたまま、空に浮かぶ雲の輪郭を目でなぞる。勝てない。わかっていた。

五年三組、男女合わせて三十七人のうち、中西くん本人を含む二十三人が（青になっても）に投票した。きみの（渡る前にも）に手をあげたのは十人——いつも「ブンちゃん、ブンちゃん」とまとわりついてくる連中はかりだった。

⑬ きみは、中西くんの標語に手をあげた。他の誰にも負けないぐらい右手をピンと伸ばして、高く掲げた。でも、中西くんは、「では、五年三組の標語は、中西くんが提案した……」と細田くんが言いかけるのをセイして、最初と変わらない落ち着きはらった態度で言った。

「和泉くんとほくの合作です」

⑭ ゴム印で軽く捺されただけだった「負け」が、その瞬間、焼きゴテで強く胸に押しつけられたような気がした。

（重松 清『きみの友だち』より）

なに認めさせるいやな存在。

ウ 毎学年いつも一学期に学級委員に選ばれる、だれもが認める何でもクラスで一番という存在。

エ クラスの男子のだけよりも能力があり、いつもクラスの中心にいて強い力を持っている存在。

問五 線 ④「筋書きどおり」とありますが、「筋書き」とはどのようなことですか。その内容として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 提案されている標語の中からクラスの標語を選ぶ方法を多数決にすること。
- イ 多数決で、提案されている標語をクラスの標語とそうでない標語とに二分すること。
- ウ 多数決で、自分の提案した標語をクラスの標語としてはっきり決めさせること。
- エ 多数決で、自分の標語に対するクラスの人気をはっきり知ろうとすること。

問六 — 線⑤「出端をくじかれた」とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の標語がクラスの標語として決まる直前に投票が止められたこと。

イ みんなの標語を決めるための投票に入る直前で投票が止められたこと。

ウ せっかく学級委員としての威厳を取り戻したのに投票が止められたこと。

エ 標語への全員の気持ちは決まっていたのに投票が直前で止められたこと。

問七 — 線④「それ」が指す内容を、アは八字で、イは二十字以内で、それぞれ答えなさい。

問八 — 線⑥「おとなしい奴」とは、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 転校してきたばかりで、にこにこしてあいそがいいと思っただ奴。

イ 転校してきたばかりで、静かに落ち着いた意見を言うと思っただ奴。

ウ 転校してきたばかりで、さわがず静かでおだやかだと思っただ奴。

エ 転校してきたばかりで、あまり意見などを言わないと思っただ奴。

問九 — 線⑩「きみは声を張り上げる」とありますが、ここに表れている「きみ」の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 二学期に転校して来たばかりの奴には負けられないという強い思い。

イ 転校して来たばかりの奴をこわがらせて取り消させたいという強い思い。

ウ クラスの注目をあつめて自分の意見を認めさせたいという必死な思い。

エ 自分の意見の正しさを強調して転校生に分からせようとする必死な思い。

問十 — 線⑪「一つの声の束にまとまっていた」とは、どういうことを表しているのですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア プンちゃんの標語を否定する意見がクラスの男子の中にふえてきたこと。

イ 教室のざわめきがだんだん大きくなって一つの声のように聞こえること。

ウ 中西くんの意見は良いという声がクラスのうちから聞こえていること。

エ 中西くんの提案した意見に賛成する気持ちでクラスがまとまっていたこと。

問九 — 線⑦「教室は一瞬静まり返った」のは、なぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア クラスで決まりかけていたプンちゃんの標語を否定するとは、だれも考えないことだったから。

イ みんながたよりにするプンちゃんの標語はサイコーで、それを直すとはだれも考えなかったから。

ウ せっかくプンちゃんの標語に決まりかけていたのに、それを直すのはかわいそうだったから。

エ たよりにしていたプンちゃんに提案してもらった標語だが、それを直すのは失礼になるから。

問十 — 線⑧「落ち着いた口調」と似た内容を表している言葉を、「口調」に続くように三字で文中よりぬき出しなさい。

問十一 — 線⑨「男子は困惑顔で……見るだけだった」のは、どうしてですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 中西くんが転校生なのに意見を言ったことをプンちゃんがどう受け止めるか分からないから。

イ 中西くんが事情を知らずに発言したので、プンちゃんが気にするのではと心配になったから。

ウ 中西くんの意見は納得できるものであったが、プンちゃんの手前受け入れられずに困ったから。

エ 中西くんは標語の間違いを強調するので、プンちゃんと議論になるのではとこわくなったから。

問十二 — 線⑫「窓の外を見つめ……目でなぞる」とありますが、この時の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の標語が認められるはずだったのに、あきらめられない悔しい気持ち。

イ 中西くんの意見の正しさを認めて、負けを自分に言い聞かせるつらい気持ち。

ウ 中西くんの意見を負かそうとして、意見の間違いをさがしている必死な気持ち。

エ 自分の標語が直された後での投票だけれど、なんとか選ばれたいと願う気持ち。

問十三 — 線⑬「他の誰にも負けない……高く掲げた」とありますが、この行動で表される「きみ」の態度は何ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 寂しい態度 イ 悔しい態度

ウ 潔い態度 エ 悲しい態度

問十四 — 線⑭「その瞬間、……ような気がした」とありますが、それほど強く「負け」を意識させられた原因はどんなことですか。それを表している部分を文中よりぬき出しなさい。

一 一 次の記事を読んで、後の問に答えなさい。ただし、句読点・記号は一字として数えることとします。

目的に対する道具や技術などいくつかの選択肢がある場合、自分の生活にはどれが一番適しているのか考えることはとても大切なことです。

わたしは冬になると、暖房には石油ストーブを使っています。「いまどき？」という人もいますが、いろいろな暖房器具を使って、やはりこれが一番だと思っています。灯油が切れたら給油をしなければいけないし、ストックの灯油が切れないように毎週販売店が来る日にポリタンクを出しておかなければならないし、換気は必要だし、いろいろわずらわしいことはあります。が、「暖房」器具として欠かせない特性を持っていると思います。

炎が見えること。炎が見えるということは、ただ単に部屋の中の温度が上昇するという以上の温かい効果をもたらしてくれそうです。部屋の中に、オレンジ色に燃える炎があるというだけで、冬を暖かく過ごしている今の暮らしへの感謝の気持ちがわいてきます。

料理もでき実用的です。これは、エアコンやファンヒーターにはできないケイトウ。鉄の鍋をストーブの上のせてもちを焼くと、それほど焦げの心配もなくて裏返す忙しさからも解放されて、こんがり焼きます。焼き芋もおいしい。アルミホイルに包んで鉄の鍋に入れふたをしておけば、ふつくと甘い焼き芋ができます。理想

端技術」というお高くとまった言い方ではなく、ちよつとした工夫にすぎませんが、とても合理的です。この方法が進み、すべての建物に取り入れられればと考えると、エアコンの省エネ率を上げるための技術開発や地球温暖化を抑制するための技術開発に邁進しているのがな

んだか滑稽に思えてきます。
適切な温度を得るための工夫は、冬だけではなく、夏にもとても大切なことです。暑い夏、涼しさを得るためにはいろいろな工夫がされてきました。現在普及している方法は、エアコンによる冷房です。冷房は、家の断熱性や機密性を高めて内部を冷房し、あたたまった空気は外に捨てるというしくみです。都心部ではヒートアイランド現象が起こっています。外気とのつながりをシャットアウトして内部だけを涼しくするためにエネルギーを使う。エアコンの電力使用量の増加を解決するために、エネルギーの供給量を増やし、そのための技術開発として原子力発電所や新エネルギーの開発に邁進したり、エアコンの消費電力を少なくするための技術開発を行う。こうして考えると、技術の方向のちがいが浮き彫りになります。そこに新たな提案ができるのは、生活の中から生まれる、「ここここを結ばば合理的な関係ができるんじゃないか」と感じる、暮らしのサイズにあったサイズです。高度な科学技術ではなく、生活する人のちよつとしたアイデアや工夫が力をハッキリするかもしれません。

(中略)
環境 共生型住宅を提唱する甲斐徹郎さんは、住居の快適な環境に

的な調理条件だと思っています。

冬の昼食はうどんやラーメンがあります。そのために湯を沸かすのは、ストーブの仕事です。沸くまでの時間こそかかりますが、吹きこぼれの心配がなく、原稿を書くのに集中できます。十数分で約二リットルの熱湯ができ、熱いお茶がいつでも飲めます。お湯が沸いたら、ステンレス製のポットに移します。電気ポットのお世話にならなくても、冬のさなかにいつでも熱いお湯が使えるのは、なんとこの贅沢でしょう。もともと暖房を目的としていますので、お湯のため、おもちのため、焼き芋のために新たに燃料を消費しません。エアコンで暖房をし、電気ポットでお湯を沸かし、オーブンで焼き芋をつくり、ガスコンロでうどんを調理するよりも、ずっと経済的です。

《A》わたしは、まだまだこの熱を有効にジョウズに利用する方法があるはず、と悔しさも味わっています。
お湯をいくらでも沸かせるとは言っても、保存するポットの容量には限界があります。せいぜい二リットルくらい。このお湯を一日中沸かしておき、その沸かしたすべてのお湯を有効利用できたらどんなにいいか、と思わずにはいられません。高温のまま保存してお風呂に使うことができれば最高です。沸かしたお湯を、家の床や壁の中に埋めたパイプを通して昼間は使わない寝室の暖房に使ったら、夜中も安全に暖かくできます。

暖房、給湯、台所など個々の側面に注目してそれぞれ技術開発を進めるのではなく、「温度」という枠組みで家全体を考えるのです。「先づいて、わたしたちの体を感じる温度とはなにか、快適さはなにかをわかりやすく説明しています。簡単に言うと、夏、閉めきってクーラーで冷やす部屋が必ずしも快適とはいえないということを、とても「科学的」にコウサツしているのです。

わたしたちが「涼しい」と感じるのはどのようなときか、ちよつと思いついてみましょう。冷房で空気の温度を下げた部屋でしょうか？ たしかに夏の暑い日、炎天下を歩いてきてクーラーの効いた部屋に入ったときの一瞬は、「あー、すずしー」と声が出るほど気持ちのいいものですが、それはほんのひとときのことです。しばらく経つと寒くなってきて、体の芯まで冷えてしまうことも少なくありません。

《B》といて、冷房の設定温度を上げればよいのでしょうか？
夏の昼休み後、走り回ってきて席についてもなかなか汗が引きません。そんなとき、下敷きでばたばたと顔や体を扇いで涼しさを感じていたときのことを思い出しませんか？ ばたばたと手で扇いでもべつに教室の気温が低くなるわけではないのに、確実に涼しくなっていたではありませんか。これはまさに熱の移動なのです。

暑かったら扇ぐ。空気の流れをつくり、温度の移動を起こす。生活実感として特に意識もせず取り入れてきた感覚なのに、ひとたびエアコンの温度設定のコントロールパネルを見るとそのことをすっかり忘れて、三〇℃では暑い、二八℃でも暑いと、どんどん温度設定を下げ、窓を閉め切った室内をつくっていませんでしたか。

暑い時期に部屋の中を冷房を使って二〇℃に下げたとしても、家

の壁や窓ガラス、床、ベランダなどが四〇℃もあると、体感温度は三〇℃程度となり、設定温度二〇℃でも涼しくもなく、快適ではありません。暖められた外部の放射熱が、冷房している室内を暖めてしまふのです。《C》、外の気温が三四℃でも、風があり熱の移動があれば、涼しく快適です。

(佐倉 統／古田 ゆかり『おはようからおやすみまでの科学』より)

*選択肢……………いくつものの中から、よいものを選ぶ答え。

*適進……………わき目もふらずに、勢いよく進むこと。

*滑稽……………ばかばかしくて、くだらないこと。

*ヒートアイランド現象……………さまざまな原因で都市部が周辺の地域よりも高い温度になっている現象。

*共生……………おたがいに助け合って生活すること。

問一 〓線 a d のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 《A》《C》に入る最も適当な言葉を次から選び、記号で答えなさい。ただし、記号は一度しか使えません。

A でも I さて U たとえ E だから

問七 〓線⑤「悔しさも」とありますが、筆者はどうしてそう感じ

ているのですか。その理由を文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

問八 〓線⑥「ちょっとした工夫」とは、何ですか。その説明にあたる部分を文中より「こと」に続く形でぬき出しなさい。

問九 〓線⑦「技術開発に……滑稽に思えてきます」とありますが、これと同じ内容を表している部分を文中よりぬき出しなさい。

問十 〓線⑧「新たな提案」とは、何ですか。それを表している部分を文中より十六字でぬき出しなさい。

問十一 〓線⑨「わかりやすく説明」とは、何についての説明ですか。文中より二つ、七字と三字でぬき出しなさい。

問十二 〓線⑩「わたしたちが……思い出してみましょう」とありますが、思い出してほしい「涼しさ」とはどのようなものですか。簡潔に答えなさい。

問十三 〓線⑪「設定温度を上げればよいのでしょうか」の問いかけに対する答えは「よくない」となりますが、その答えのもととなる事がらを文中より五字でぬき出しなさい。

問十四 〓線⑫「そのこと」が指している内容を文中より七字でぬき出しなさい。

問三 〓線①「いまどき？」から読み取れることとして、適切ではないものを次から選び、記号で答えなさい。

A 石油ストーブを使う人はもう少ないでしょう。

I まだ石油ストーブを使っているのですか。

U もう石油ストーブはやめたらどうですか。

E このごろ石油ストーブは使われなくなつた。

問四 〓線②「暖房」器具として欠かせない特性」とありますが、「石油ストーブ」の特性を表している部分を文中より二つ、それぞれ八字以内でぬき出しなさい。

問五 〓線③「理想的な調理条件」とありますが、次のア～エで正しいものには○を、そうでないものには×を付けなさい。

ア 全く焦げることなく、裏返す手間からも解放され、こんがり

りと焼き上がる点。

I アルミホイルに包んで、鉄鍋に入れるだけで甘い焼き芋が

焼き上がる点。

U 裏返す忙しさから解放され、多少の焦げはあっても、こん

がりと焼き上がる点。

E 何もめんどうなことをせず、ほうっておくだけで料理ができあがる点。

問六 〓線④「経済的」の説明となる部分を文中より十三字以内でぬき出しなさい。